

「全運動軸」を提唱して咬合学の歴史を変えた
河野正司先生による研究と臨床の集大成

咀嚼機能を支える 臨床咬合論

—欠損補綴とインプラントのために—

The Clinical Theory of Occlusion for the Masticatory Rehabilitation
—For the occlusal treatment by the cases conventional prosthesis and modern implant prosthesis

河野正司 著



補綴臨床家はもちろんのこと、
すべての歯科医療人が理解しておくべき
新しい形の咬合学がここに——

CONTENTS

■臨床編

- I. 補綴治療の目標
- II. 咬頭嵌合の診断—初診時の症状から何を診断するか？
- III. 咬頭嵌合の再構築
- IV. 咬合器の使用法
- V. 歯のガイド付与法
- VI. 顎機能障害

■基礎編

- 第1章 咀嚼機能を支える咬合
- 第2章 下顎位
 - I. 咬頭嵌合位と中心咬合位
 - II. 中心位の定義
 - III. 顎頭安定位
 - IV. 望ましい水平的下顎位
 - V. 下顎後方変位の病理性—顎機能障害を起こさないために—
 - VI. 垂直的下顎位—咬合高径—
- 第3章 下顎運動と全運動軸
 - I. 下顎運動
 - II. 全運動軸とは
 - III. 下顎頭運動の最新の知見
- 第4章 顎運動と姿勢
 - I. 下顎運動に伴う頭部運動
 - II. 下顎運動と姿勢
 - III. 胸鎖乳突筋と咬合
- 第5章 歯のガイドと顎機能
 - I. 歯のガイドとは
 - II. 歯のガイドの要件
 - III. 歯のガイドに期待される機能
- 第6章 咀嚼と補綴治療
 - I. 高齢者と咀嚼—義歯はどのように使用されているか—
 - II. 咀嚼行動をみる
 - III. 咀嚼行動における歯の役割
 - IV. 自由咀嚼と片側咀嚼

■現代の臨床咬合理論の出発点となる「顎頭安定位」の概念を臨床・研究を通して定着させるとともに、「全運動軸」という新たな概念を提唱し、咬合の世界に衝撃を与えた河野正司先生（新潟大名誉教授・明倫短大教授）による咬合論の集大成！

■歯科医療を語るなら、まずは読んでおくべき一冊。咬合学の歴史・現在を俯瞰し、それに連なる臨床の実際を供覧した本書は、刻々と変わりゆく歯科医療界における“羅針盤”となります。

■A4判／240頁／2色刷 ■定価13,650円（本体13,000円+税5%）

ISBN978-4-263-44311-8

医歯薬出版株式会社
〒113-8612 東京都文京区本駒込 1-7-10
TEL.03-5395-7630 FAX.03-5395-7633
<http://www.ishiyaku.co.jp/>

